

質問者 玉名中学校 古賀 真斗 議員 農林水産政策課

3 農林・水産について

④ 農林水産業従事者の高齢化を解決するための市の取り組みについて。また、私たち若い世代はその高齢化解決のためにどう関わっていけばよいのか

(答弁者 産業経済部長)

次に、玉名中学校 ^{こがまなと}古賀真斗議員ご質問の「農林水産業従事者の高齢化を解決するための市の取り組みについて。また、私たち若い世代はその高齢化解決のためにどう関わっていけばよいのか」についてお答えいたします。

まず、「農林水産業従事者の高齢化を解決するための市の取り組みについて」ですが、本市農業の高齢化の状況としては、直近の統計上の数値における 65 歳以上の農業従事者数が全体に占める割合、いわゆる高齢化率は 47.46%で、県全体では 51.39%となり、県下 14 市で見ると最も低い八代市の 43.77%に次ぐところですが 4%弱の開きがあります。また、平均年齢については 60.72 歳で、県全体では 62.23 歳となり、高齢化率と同じく八代市の 59.59 歳に次いで 2 番目に

若い年齢となっています。本市においても農業従事者のおよそ2人に1人は65歳以上の方となり、高齢化が進んでいるものと考えられ、施設園芸が盛んな本市の横島など干拓地と比べ、特に中山間地が顕著であり、より高齢化が進んでいるものと思われます。

そこで農業を始めたい方や就農直後の方への支援として、県立農業大学校や市内先進農家等での農業研修開始から就農直後の不安定な時期において、安定した農業経営を実現するために国の事業による資金面での援助を行い、新規就農者の確保を図っています。また、就農後の支援として、この他にも若手の農業後継者で組織する3団体の年間を通した社会貢献活動に対する補助を行うことで育成を図っています。更に、農作業の省力化と生産性の向上を図るため、先進技術を導入した自走式草刈り機やドローン等の購入費補助や分散する複数の農地を1か所に集約する取組を並行して実施しているところでもあります。

漁業についても農業と同様に、漁業者の高齢化や後継者不足等から担い手は減少傾向にあり、新たに漁業を始める方に漁業現場での長期研修をはじめ、就漁定着のための漁船、漁

具のリース事業など国や県の補助事業による各種支援策を活用することで、必要な支援を行っているところです。

次に、「私たち若い世代はその高齢化解決のためにどう関わっていけばよいのか」についてですが、玉名市の基幹産業である農業は、平坦地では水稻、麦を主体とした土地利用型農業やトマト、イチゴを主体とした施設園芸を、丘陵地ではミカンを主体とした果樹園芸を立地条件を生かして栽培し、中でもイチゴ、トマト、ミカンは全国でも有数の産地となっています。また、農業・農村は食料を生産、供給する役割に加えて、自然環境や国土の保全、水源のかん養等の様々な役割や機能を有しています。しかし高齢化が進み地域農業の担い手が減少すれば、全国で有数の産地も衰退し、耕作放棄地が増加し、農業・農村の多面的機能が失われると共に、地域の活性化に影響を及ぼすことになります。

これらの問題を解決するためには、農業が本市の基幹産業であることを市民1人ひとりが認識し、食料、農業及び農村が果たしている役割の重要性について理解を深めると共に、地域で生産される農産物の地産地消を進めて行く必要があります。

そこで若い皆様には、普段から自宅や学校給食等で使用される色々な食材に興味や関心を持ち、本市の農業や農作物に触れていただくこと、例えば稲刈り学習等の農業体験を通じた学びの機会を経て、作物を作る楽しみや収穫の喜びを実感していただきたいと考えます。このような体験等を通じて、農林水産業に関心を抱き、玉名市に誇りを持ち「なりたい職業」として選択されれば大変有難く思います。

是非、一人でも多くの若い世代の方が将来の担い手として、持続可能で活力に満ちた玉名の農業の牽引役になっていただくことを切望いたします。